附属資料

①用語解説集

②地域戦略に登場する～生きもの図鑑～

③・「静岡市生物多様性地域戦略」の見直しに向けた調査研究委員会委員名簿（令和元年度）

・静岡市生物多様性地域戦略専門家検討委員会委員名簿（令和２年度）

附属資料①

1　用語解説集

あ行

■アドプトプログラム

アドプトとは「縁組」を意味し、環境の保全と川や自然への愛護意識の向上を図るための取組。参加者（個人・学校・事業者・市民活動団体など）は一定区間に分けられた河川や自然と縁組し、美化活動や環境保全活動をボランティアで行う。

■ＥＳＧ投資

従来の財務情報だけでなく、環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）要素も考慮した投資のこと。気候変動などを念頭においた長期的なリスクマネジメントなどの指標として、ＳＤＧｓと合わせて注目されている。

■遺存種

過去の地球上において繁栄し、広く分布していたが、その後の環境の変化により分布を縮小し、現在では限られた場所にわずかに生息・生育している生きもの。「生きている化石」と言われる。

■エコツーリズム

自然や文化などの環境を損なわない範囲で、自然観察や先住民の生活や歴史を学ぶ、新しいスタイルの観光形態。環境と経済の好循環をもたらす取組として注目されている。

■ＳＤＧｓハブ都市

平成 30 年 5 月、国連 NY 本部において市長が静岡市の SDGs への取組を世界に向けて発信し、静岡市は、国連から平成 30 年 7 月にアジアで初めてのＳＤＧｓハブ都市に選定された。

■ＳＤＧｓ未来都市

ＳＤＧｓの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として選定されるもの。静岡市は平成 30 年６月にＳＤＧｓ未来都市に選定された。

■尾根

山の峰と峰とを結んで高く連なる所。

か行

■カール

氷河の侵食作用により斜面が削り取られ形成された、広い椀状の谷。氷河地形の一つ。

■海洋プラスチックごみ

プラスチック製のペットボトルや容器などは、ポイ捨てなど適切な処分がされないことにより海に流され、海洋プラスチックごみになる。そうしたプラスチックごみが海洋汚染や生態系に及ぼす影響が、世界中で問題となっている。

■外来種

そもそもその地域に生息・生育せず、人間の活動に伴い海外や国内のほかの地域から持ち込まれた生きもののこと。

■環境保全型農業

農業の持つ多面的機能※を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくりなどを通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続性の高い農業。
※多面的機能とは、様々な農産物を安定供

給するという本来的な役割に加え、水源の涵養、自然環境の保全、景観の形成など、農業の持つ多様な機能のこと。

■汽水

河口域や沿岸潟湖（せきこ）でみられる、海水と淡水が混合した状態の水塊のこと。

■COOL　CHOICE（クールチョイス）

地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動のこと。

■グリーンツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

■耕作放棄地

５年に一度調査が行われる「農林業センサス」で定義されている用語で、「以前耕作していた土地で、過去１年以上作物を作付け（栽培）せず、この数年の間に再び作付け（栽培）する意思のない土地」のこと。

さ行

■再生可能エネルギー

エネルギー源として永続的に利用することができるものを利用することにより生じるエネルギーの総称。具体的には、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマスなどをエネルギー源として利用することを指す。

■砂嘴（さし）

岬や半島などの陸地から細長く海に突き出している砂礫の堆積地形で、対岸の陸地や島に到達するに至っていないもの。

■砂州（さす）

湾口や入り江の口を塞ぐようにして形成された砂礫の堆積地形。砂嘴が成長して対岸の陸地や島と連結するに至ると砂州と呼ばれる。

■里地里山

集落を取り巻く農地、ため池、二次林と人工林、草原などで構成される地域であり、相対的に自然性の高い奥山自然地域と人間活動が集中する都市地域の中間に位置する。
参考：「環境省里地里山保全活用行動計画」

■砂礫（されき）

砂と礫が混在したもの。

■山岳・森林地域

山々が連なる地域で、自然林や二次林、人工林などの森林が広がる環境。

■山地

大きな起伏や傾斜を持ち、複数の山からなる広い地域。

■市街地

人家や商店などが密集する地域。

■自然再生事業

自然再生推進法に基づき、自然再生を目的として実施される事業。森林、草原、里地里山、河川、砂浜、干潟、藻場、サンゴ礁などの多様な自然環境の「保全」、「再生」、「創出」、「維持管理」活動を以下の４つの視点※を明確にして行われる事業。

※自然再生の４つの視点

① 生物の多様性確保を通じた自然との共生
② 地域の多様な主体の参加・連携
③ 科学的知見に基づいた長期的視点からの順応的取組
④ 残された自然の保全の優先と自然生態系の劣化の要因の除去

参考：「自然再生基本方針」

■市民活動団体

市民活動を行うことを主たる目的とし、市民活動を継続的に行う団体。

■周北極要素

北極や高緯度の地域を中心に、北半球に分布する植物。

■照葉樹林

冬でも落葉しない広葉樹で、葉の表面のクチクラ層（角質の層）が発達した光沢の強い深緑色の葉を持つ樹木に覆われた森林。
参考：「林野庁ＨＰ」

■人工林

木材利用のため、苗木の植栽や間伐、伐採が行われ、人の手により管理された森林のこと。

■森林限界

高木が生育できず森林を形成できなくなる境界線。

■森林地帯

森林が広がる環境。

■水域

河川や池沼・湿地、河口、干潟、沿岸・海洋など。

■水源涵養林

降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能を持っている森林。
参考：「林野庁ＨＰ」

■静水

静止して動かない水。（静水域：水の流れがない場所。）

■生態系

地球上に住む植物や動物、微生物などすべての生きものは、土や水、大気という環境の中で生きており、それらを取り巻く環境と互いに関わりあうことでまとまったシステムを作り出している。これを、生態系という。

■生物相

特定の地域に生息・生育する生物の種類組成。「植物相」と「動物相」がある。

た行

■地球温暖化

人の活動に伴って発生する温室効果ガスが、大気中に増加することによって地球の気温が上がる現象。異常気象や生態系などへの影響が懸念されている。

■中心市街地

市街地の中でも、行政機能や商業機能などが集中する地域。

■特定外来生物

外来生物法で指定された外来種であり、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす、又は及ぼすおそれがあるため飼養や運搬などが規制されている生きもののこと。

■都市地域

平野部に広がる市街地。

な行

■南限地

その生物が分布する南の方の限界の地域。

■二次林

自然林が伐採や風水害、山火事などによりかく乱された跡に、土中に残った種子や植物体の生長などにより成立した森林。

■農業地域

水田や畑、果樹園などの農地が広がる環境。

■農地

水田や畑、果樹園など、農業が営まれている環境。

は行

■干潟

遠浅の海岸で、潮が引いて現れた所。

■氷河地形

氷河による侵食と堆積作用により生まれた地形。

■フォッサマグナ地帯

本州の中央部を南北に横断する地殻変動帯で、西縁は糸魚川-静岡構造線、東縁は不明。主に新第三紀の海成堆積岩・火山岩類と、その上に重なる第四紀の火山で構成される。

■伏流水

河川の流水が河床の地質や土質に応じて河床の下へ浸透し、上下を不透水層に挟まれた透水層が河川と交わるとき透水層内に生じる流水で、水脈を保っている極めて浅い地下水のこと。
参考：「静岡県ＨＰ　河川用語集」

■平地

起伏のない平らな地域。

■平野部

平地が広がる地域。

ま行

や行

■焼畑

作物を栽培した後に農地を焼き払って地力を回復させる農法。静岡市井川地区では古くから焼畑が盛んで、春に行う「ハルヤブ」のあと、1年目はヒエ、それ以降はアズキなどの作物が順に栽培され、３～４年間作物を栽培した後、ハタケはヤブに戻され、地力が回復するまで20～30年待ってからまたハタケにするという、長い周期で畑地を循環させていた。このように井川の焼畑は、植生回復まで見込んだ循環的なもので、地域の自然と調和した生活文化とも言える。
参考:「静岡市ＨＰ　南アルプスde深呼吸」

■ユネスコエコパーク

生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的として、ユネスコが開始し、ユネスコの自然科学セクターで実施されるユネスコ人間と生物圏（MAB:Man and the Biosphere）計画における事業のひとつ。地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済。社会的にも持続可能な発展を目指す取組である。ユネスコエコパークは国内で親しみをもってもらうためにつけられた通称で、海外では「BR:Biosphere Reserves（生物圏保存地域）」と呼ばれる。

■溶融スラグ

鉱石から金属を製錬した時に出る副産物のことをスラグという。ごみやごみを焼却した灰を高温で溶かし（溶融）、灰に含まれる有害物質を分解し、又は封じ込め、水で急速に冷やすことにより生成される安全なガラス状固化物を溶融スラグと呼ぶ。この溶融スラグは、砂の替わりとして建設資材に

利用することができ、天然資源の保護および最終処分場の延命化等、環境への負荷を低減した循環型社会の構築が図れる材料として、静岡市発注の公共工事の建設資材に有効利用している。また、本市の溶融スラグは、日本で初めて「産・学・官」連携による農業用の肥料として認められた。

ら行

■稜線部

山の峰と峰を結び続く線。

わ行

附属資料②

地域戦略に登場する

～生きもの図鑑～

「生きもの図鑑」は、生きものを動物と植物に分けて掲載しています。
※地域戦略に登場する全ての生きものが掲載されている訳ではありません。
★のマーク：特定外来生物

【動物　109 種掲載】

【在来種】

イノシシ 関連ページ：18、23、32	タヌキ 関連ページ：32、34	アナグマ 関連ページ：32
ホンドギツネ 関連ページ：32、34	ホンドオコジョ 関連ページ：29	アズミトガリネズミ 関連ページ：29
ニホンカモシカ 関連ページ：31	ニホンジカ 関連ページ：23、29、31、32、40、63	ツキノワグマ 関連ページ：31
モモンガ 関連ページ：31	ヤマネ 関連ページ：31	ノウサギ 関連ページ：32

アブラコウモリ 関連ページ：35	カワネズミ 関連ページ：36	メジロ 関連ページ：32
ライチョウ 関連ページ：10、29、40、48	オオルリ 関連ページ：31	キビタキ 関連ページ：31、32
ウグイス 関連ページ：32	ツバメ 関連ページ：34	ヤマセミ 関連ページ：36、50
ヒヨドリ 関連ページ：34、35	ムクドリ 関連ページ：34、35	スズメ 関連ページ：35

カワガラス 関連ページ：36、50	カワセミ 関連ページ：37	コアジサシ 関連ページ：37
シロチドリ 関連ページ：37	アオサギ 関連ページ：34、37	コサギ 関連ページ：34、37
サシバ 関連ページ：34	オオタカ 関連ページ：31	クマタカ 関連ページ：31
タマシギ 関連ページ：34	ヒクイナ 関連ページ：34	アカゲラ 関連ページ：31

コルリ 関連ページ：31	イソヒヨドリ 関連ページ：35	センダイムシクイ 関連ページ：31
ニホンイシガメ 関連ページ：34	アカウミガメ 関連ページ：38、48	タカチホヘビ 関連ページ：32
シロマダラ 関連ページ：32	ヤマカガシ 関連ページ：34	シマヘビ 関連ページ：34
ジムグリ 関連ページ：32	ヤマアカガエル 関連ページ：32	ニホンアカガエル 関連ページ：34

アカイシサンショウウオ 関連ページ：31、36	ヒダサンショウウオ 関連ページ：31、36	ハコネサンショウウオ 関連ページ：36
カジカガエル 関連ページ：36	タゴガエル 関連ページ：32、36	ナガレタゴガエル 関連ページ：36
ツチガエル 関連ページ：34	トノサマガエル 関連ページ：34	シロウオ 関連ページ：36
ミズウオ 関連ページ：38	ラブカ 関連ページ：38	メダカ 関連ページ：34、37

スズキ 関連ページ：37	ボラ 関連ページ：37	クロコハゼ 関連ページ：36、37
モツゴ 関連ページ：37	アマゴ 関連ページ：36、38、50	ホトケドジョウ 関連ページ：34、36
ニッコウイワナ 関連ページ：36	ヤマトイワナ 関連ページ：36	カワヨシノボリ 関連ページ：36
カジカ 関連ページ：36、50	アユ 関連ページ：36	ウグイ 関連ページ：36

ナガレミミズハゼ 関連ページ：36	ユウスイミミズハゼ 関連ページ：36	シマヨシノボリ 関連ページ： 36
オイカワ 関連ページ：36	ヌマチチブ 関連ページ：36	マハゼ 関連ページ：37
ギンブナ 関連ページ：37	オオムラサキ 関連ページ：32	コムラサキ 関連ページ：37
ツマグロキチョウ 関連ページ：36	ミヤマシジミ 関連ページ：36	ツマグロヒョウモン 関連ページ：34

ベニヒカゲ 関連ページ：29	クモマベニヒカゲ 関連パージ：29	クモマツマキチョウ 関連ページ：31
ミスジチョウ 関連ページ：32	ヘイケボタル 関連ページ：34	キベリカタビロハナカミキリ 関連ページ：31
キトンボ 関連ページ：37	チョウトンボ 関連ページ：37	

【外来種】（★）…特定外来生物

アライグマ（★） 関連ページ：4、21、22、23、34、41、51	タイワンリス（★） 関連ページ：22	ハクビシン 関連ページ：23、34
ソウシチョウ（★） 関連ページ：21	ガビチョウ（★） 関連ページ：21	カミツキガメ（★） 関連ページ：21、37、41、51
ミシシッピアカミミガメ 関連ページ：21、37	ハナガメ（★） 関連ページ：21	ウシガエル（★） 関連ページ：21、34
ブルーギル（★） 関連ページ：21	オオクチバス（★） 関連ページ：21	カダヤシ（★） 関連ページ：21

アメリカザリガニ 関連ページ：34	セアカゴケグモ（★） 関連ページ： 21、22、41	アカボシゴマダラ（★） 関連ページ：21
スクミリンゴガイ 関連ページ：34	スクミリンゴガイ（卵） 関連ページ：34	アルゼンチンアリ 関連ページ：21、41

【植物　46 種掲載】

【在来種】

コナラ 関連ページ：19、28、32	ムカゴユキノシタ 関連ページ：29	タカネマンテマ 関連ページ：29
タカネビランジ 関連ページ：29	ミツバテンナンショウ 関連ページ：32	クスノキ 関連ページ：35
オオイタヤメイゲツ 関連ページ：31	シロヤシオ 関連ページ：31	ミズナラ 関連ページ：31、32
チャボホトトギス 関連ページ：32	キスミレ 関連ページ：32	オオアレチノギク 関連ページ：35

ミクリ 関連ページ：36、37	コマツナギ 関連ページ：36	カワラヨモギ 関連ページ：36、37
ガマ 関連ページ：37	シオクグ 関連ページ：37	アシ 関連ページ：37
ミズアオイ 関連ページ：37、53	コウボウムギ 関連ページ：38	ハマヒルガオ 関連ページ：38
ハマゴウ 関連ページ：38	コメツガ 関連ページ：31	ツガ 関連ページ：28、31

ウラジロモミ 関連ページ：31	ウラジロモミ 関連ページ：31	ミゾコウジュ 関連ページ：33
カラマツ 関連ページ：31	カラマツ 関連ページ：31	カラマツ 関連ページ：31
クロマツ 関連ページ：38	クロマツ 関連ページ：38	ハイマツ 関連ページ：29

サワグルミ 関連ページ：31	シラビソ 関連ページ：31	シラビソ 関連ページ：31
ブナ 関連ページ：28、31	ブナ 関連ページ：28、31	ヤナギ 関連ページ：36
オノエヤナギ 関連ページ：36	オオバヤナギ 関連ページ：36	バッコヤナギ 関連ページ：36

スギ 関連ページ：19、28、32	スギ 関連ページ：19、28、32	ヒノキ 関連ページ：19、28、31、32

【外来種】（★）…特定外来生物

ヒメジョオン 関連ページ：33	アメリカセンダングサ 関連ページ：33	ホシアサガオ 関連ページ：33
セイタカアワダチソウ 関連ページ：35	ヒメツルソバ 関連ページ：35	オオキンケイギク（★） 関連ページ：4、21、41
オオカワヂシャ（★） 関連ページ：21	オオフサモ（★） 関連ページ：21	

【写真撮影者　一覧】※五十音順、敬称略

・秋山　信彦
・安藤　晴康
・飯塚　久志
・内山　りゅう
・大場　孝裕
・加藤　英明
・金川　直幸
・川津　文臣
・久保田　正
・小池　正明
・小泉　金次
・佐々木　彰央
・佐藤　武
・佐野　聡
・杉野　孝雄
・鈴木　邦弘
・諏訪　哲夫
・清　邦彦
・殿岡　衛
・伴野　正志
・増田　修
・松永　幸伸
・三宅　隆
・山﨑　由晴
・山下孝道
・横山　謙二
・脇谷　量子郎
・NPO 法人　静岡県自然史博物館ネットワーク

附属資料③

■「静岡市生物多様性地域戦略」の見直しに向けた調査研究委員会

（令和元年度）

	氏　名	役職等
委員長	増澤（ますざわ）　武弘（たけひろ）	静岡大学　客員教授
委　員	秋山（あきやま）　信彦（のぶひこ）	東海大学海洋学部　教授
委　員	伊吹（いぶき）　裕子（ゆうこ）	静岡県立大学　食品栄養科学部　教授
委　員	加藤（かとう）　英明（ひであき）	静岡大学教育学部　講師
委　員	小南（こみなみ）　陽亮（ようすけ）	静岡大学教育学部　教授
委　員	諏訪（すわ）　哲夫（てつお）	日本鱗翅学会　会員
委　員	三宅（みやけ）　隆（たかし）	NPO 法人静岡県自然史博物館ﾈｯﾄﾜｰｸ　副理事長
委　員	殿岡（とのおか）　智（さとし）	静岡市　環境局　次長
委　員	三宅（みやけ）　正芳（まさよし）	一般財団法人　地方自治研究機構　調査研究部長

＝開催履歴＝

第１回　令和元年６月 11 日
第２回　令和元年 11 月８日
第３回　令和２年１月 31 日

■静岡市生物多様性地域戦略専門家検討委員会（令和２年度）

	氏　名	役職等
委員長	増澤（ますざわ）　武弘（たけひろ）	静岡大学　客員教授
副委員長	秋山（あきやま）　信彦（のぶひこ）	東海大学海洋学部　教授
委　員	伊吹（いぶき）　裕子（ゆうこ）	静岡県立大学　食品栄養科学部　教授
委　員	加藤（かとう）　英明（ひであき）	静岡大学教育学部　講師
委　員	小南（こみなみ）　陽亮（ようすけ）	静岡大学教育学部　教授
委　員	諏訪（すわ）　哲夫（てつお）	日本鱗翅学会　会員
委　員	三宅（みやけ）　隆（たかし）	NPO 法人静岡県自然史博物館ﾈｯﾄﾜｰｸ　副理事長

＝開催履歴＝

第１回　令和２年８月６日
第２回　令和２年 11 月５日
第３回　令和３年１月 26 日

『　ポパイフジとテンヤワンヤのナカマたち　』

美術作家

松瀬　千秋（Matsuse,Chiaki）

静岡市清水港生まれ

フランス・パリ旅行がきっかけとなり、絵を描き始める。

各地で暮らした後、現在は清水でアーティスト活動を続ける。

憧れの海の中への興味から、2018 年スキューバダイビングを始める。

作品に込めた想い

三保の海に潜ると、切れた釣り糸やごみを見つけて残念な気持ちに･･･。そんな時、富士山の宝永山がポパイの力こぶのようになって、ごみを回収し、浄化して、花を咲かせたら面白いかも！とのアイデアから、人々が少しでも自然のことを考えるきっかけになるよう想いを込めて描いた作品。

『　ポパイフジとテンヤワンヤのナカマたち　』

テンヤワンヤの海の中、ポパイフジも大忙し。もう一度、輝く海に暮らすのが、ナカマたちの夢。

第２次静岡市生物多様性地域戦略（令和３年３月）

静岡市　環境局　環境創造課

〒420―8602　静岡市葵区追手町5番1号　　TEL：054－221－1319